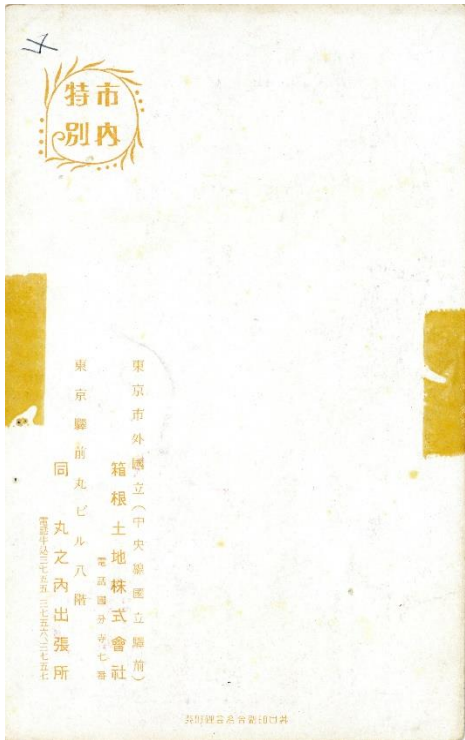


『赤い三角屋根』誕生—国立大学町開拓の景色—展
 展示資料の紹介-4



資料 1 絵葉書：国立案内 大正 15（1926）年 くにたち郷土文化館所蔵



資料 1 の宛名面

資料 1 は当館が所蔵する絵葉書で、箱根土地株式会社（以下「箱根土地」とします。）が、国立における分譲地販売を促進するために作成したとみられる宣伝用の絵葉書です。

「国立の或る商店」と「国立の或る住宅」と題された建物の写真が掲載されており、国立の施設や教育機関の充実を示すとともに、分譲地を廉価販売することを述べています。

初回の資料紹介¹で、箱根土地が国立への来訪を誘った絵葉書について、宛名側に記載されている案内文の内容から作成時期をみましたが、今回も資料 1 が作成された時期を探ってみましょう。

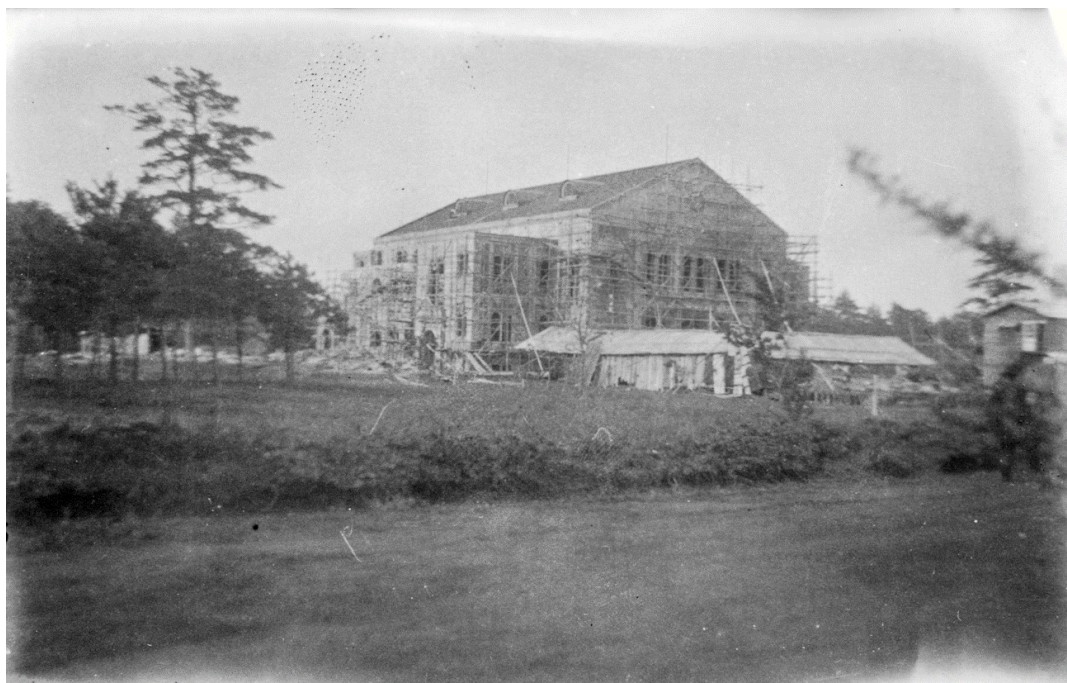
まず、宣伝文の冒頭部分を見ると以下のように述べています。

「国立の玄關口とも云ふべき駅も出来道路、下水も完成し東京商科大学（建築予算五百万円）も大講堂

¹ <https://kuzaidan.or.jp/province/curator-info/> 『赤い三角屋根』誕生—国立大学町開拓の景色/

の建築に着手しました。東京高等音楽学院や小学校は既に開校して居ます。音楽堂、水禽舎、動物舎、児童遊戯場等も出来ました。」

初回の資料紹介をご覧いただいた方は、チェックポイントがもうお分かりなのではないでしょうか。ここで記されているうち、「国立の玄関口とも云ふべき駅も出来」とある国立駅の開業は、大正 15（1926）年 4 月 1 日のことです。また、「東京商科大学（建築予算五百万円）も大講堂の建築に着手しました。」とあるのは、現在の一橋大学西キャンパスにある兼松講堂の建築着手を示しています。兼松講堂は、大正 15 年 8 月 6 日に起工²していることから、絵葉書の作成時期は大正 15 年 8 月以降とまず考えられます。



資料 2 建築中の兼松講堂 昭和 2（1927）年 明窓浄机館所蔵（中島陟資料）

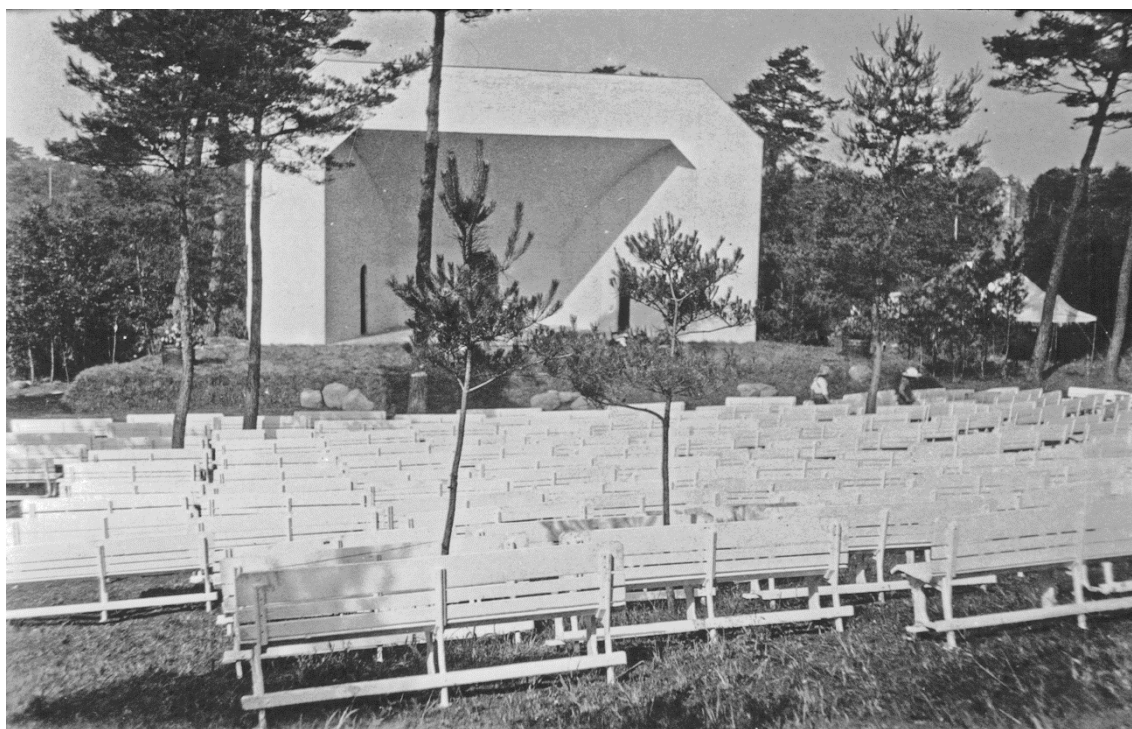
資料 2 は建築中の兼松講堂を収めた 1 枚で、「4 月 29 日」の裏書きがなされた写真です。兼松講堂は昭和 2 年 3 月 13 日に上棟、同年 11 月 6 日には開館式が行われますが、この写真は上棟後に外観の姿が現れてきた様子を収めたものとみられます。裏書きからして昭和 2 年 4 月 29 日に撮影されたと考えられ、撮影日が確認できる貴重な 1 枚です。

次に、「東京高等音楽学院や小学校は既に開校して居ます。」からするとどうなるでしょう。東京高等音楽学院（現 国立音楽大学）は新宿の仮校舎で大正 15 年 4 月に開校しています。同年の 2 学期から国立へと移転してきますが、箱根土地の宣伝などではこの国立移転をもって同校の開校を謳うものがあります³ので、本資料の表現も国立へと移転してきたことを示すものと考えられます。「小学校」とあるのは、国立学園小学校のこととみられますが、同校は大正 15 年 4 月に開校しています。

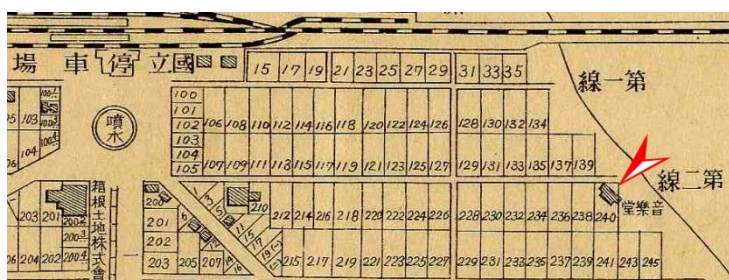
² 依光良馨『大学昇格と籠城事件』（社団法人 如水会、1989 年 3 月 31 日）282 頁。

³ 初回の資料紹介（<https://kuzaidan.or.jp/province/curator-info/> 『赤い三角屋根』誕生—国立大学町開拓の景色）に掲載した資料 2 の絵葉書：『中央線国立駅（国分寺・立川間）』の案内文では、「国立は東京高等音楽学院が九月から開校されます時々演奏会が開かれます」と記しています。

さらに「音楽堂、水禽舎、動物舎、児童遊戯場」の諸施設完成を謳っていますが、「音楽堂」（国立音楽堂）では大正 15 年 7 月に新築披露の大演奏会が催されていますから、国立音楽堂が完成しているとなると大正 15 年 7 月以降という時期が考えられます⁴。



資料 3 国立音楽堂 大正 15 (1926) 年 明窓浄机館所蔵 (中島陟資料)



『国立分譲地区画図』（大正 15・1926 年）を加工

資料 3 の国立音楽堂は第 2 線の東端に建てられていました。当時の報道に拠れば、3 間×6 間の舞台で、客席に 5,000 人を収容する規模だったようです。

これらの宣伝文冒頭の記述内容に加え、掲載されている「汽車時刻表（改正）」の下に記されている一文に、「初秋の風光を賞しつゝ御家族御同伴御視察を願ひます。」とあるのが目に留まります。この国立への来訪を誘う一文で「初秋」としていることも加味すると、大正 15 年 9 月頃に作成されたものではないかと考えられるのですが、いかがでしょうか⁵。

⁴ 「水禽舎、動物舎、児童遊戯場」の施設については、設置時期が明瞭となる資料を見いだせていません。水禽舎については概ねの設置時期（大正 15 年 4 月～8 月の間）が推定されますが、その時期を確定できるまでの資料は未見です。

⁵ 掲載されている「汽車時刻表（改正）」にある汽車の発着時間は、鉄道博物館所蔵の『汽車時間表附汽船自動車発著表』大正 15 年 9 月号（鉄道省運輸局編纂）に記載されている時間と同じものです。

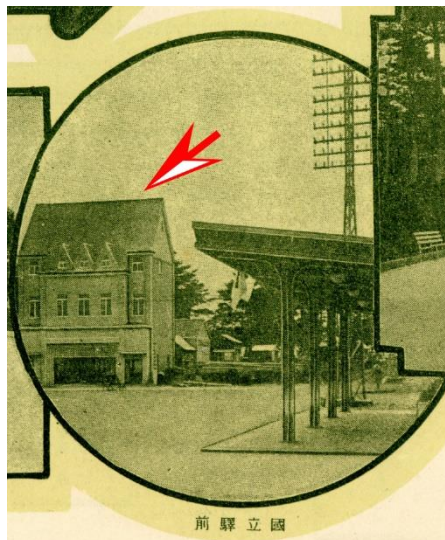
さて、写真が掲載されている「国立の或る商店」と「国立の或る住宅」と題された建物をみていきましょう。

まず「国立の或る商店」です。これは国立駅前広場の西側、現在の三井住友銀行 国立支店のある位置に建っていた国立運送店の建物を撮影したものです。その建築時期は判然としませんが、国立駅を造る時に建てたとの聞き取り資料⁶があり、第2回の展示資料紹介で掲載した航空写真（国立大学町航空写真）に写し撮られた状況からして、箱根土地本社⁷よりも先に完成していたのではないかとみられるものです。



店商る或の立國

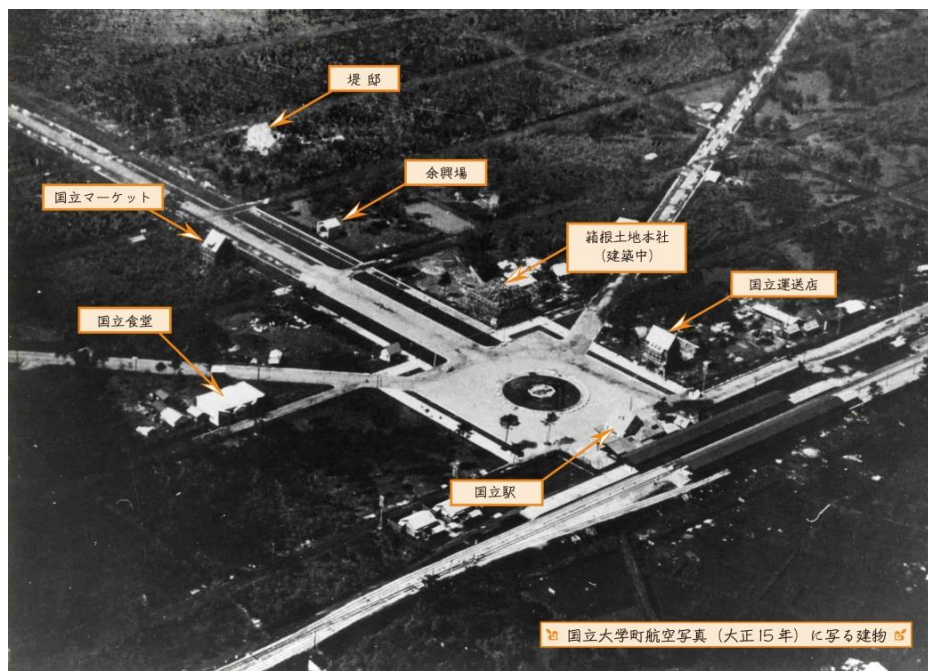
資料1の掲載写真



前驛立國

国立駅前

館蔵『国立分譲地案内』（大正15・1926年）掲載写真を加工



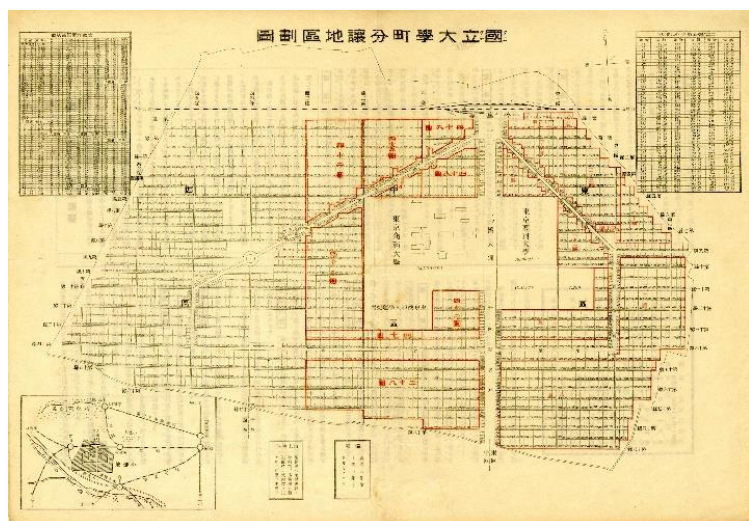
館蔵：国立大学町航空写真（大正15・1926年）を加工

⁶ 国立市民具調査団編『国立の生活誌 古老の語る谷保の暮らし』（国立市教育委員会・国立市民具調査団、1983年3月31日）57頁で、「駅のすぐ横にかなり最近まであった通運〔国立運送店：引用者〕の建物は、国立駅を作る時に建てちゃったんだ。」と北島春治氏は語っています。

⁷ 箱根土地の本社屋は、大正15年6月頃に完成したものとみえています。

国立運送店をはじめ国立駅周辺にあった国立食堂や国立マーケットなどの建物は、東京高等音楽学院が2学期から国立へ移転してきた際、新校舎が落成（大正15年11月20日竣工、同23日に落成記念会を開催）するまでの間の教室等として利用されたようです。同校の経営部門を担当した中館耕蔵氏が語る所では、国立運送店の建物は2・3階を寮として使用していたとのこと⁸。また、東京商科大学〔現一橋大学〕の大学新聞『一橋新聞』第55号（昭和2・1927年7月18日）には、昭和2年7月に東京商科大学の運動部が国立運送店の2・3階を合宿で利用していたことが報じられています⁹。

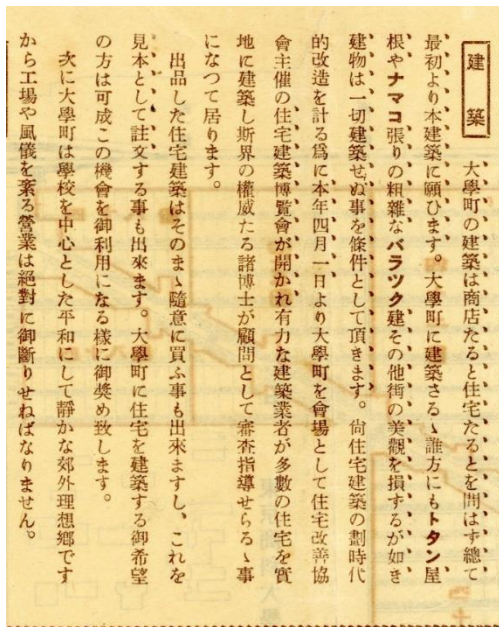
資料1の宣伝文では、「さてこれから図の様な各商店や住宅が続々出来るばかりです。」と述べていますが、この点からは国立運送店の建物が商店建築の見本として取り上げられていることが窺われます。箱根土地は、自社が開拓した国立大学町において、その分譲した土地に新たに建築される商店や住宅について制限を課していたようです。箱根土地が大正15年初め頃に作成したとみられる分譲案内（資料4）では、「本大学町の建築は商店たると住宅たるとを問はず総て最初より本建築に願ひます。」とし、続けて「大学町に建築さるゝ誰方にもトタン屋根やナマコ張りの粗雑なバラック建その他街の美観を損ずるが如き建物は一切建築せぬ事を条件として頂きます。」と述べています。



資料4 国立大学町分譲地区画図 大正15（1926）年 くにとち郷土文化館所蔵

⁸ 『私たちの町にくにとち 聞きとり資料（1）国立開発～昭和20年』（国立市公民館図書室所蔵）「中館耕蔵さん（国立音大）の話（国立開発）」に、「私たちはまだ完成〔国立の新校舎の完成：引用者〕しないうちにひっこしたんです。会社〔箱根土地：引用者〕がモデルとして作った物が駅前は何軒かあってそれを私どもの教室に使ったんです。三井銀行の前にはマル通の運送店〔国立運送店：引用者〕があった。その2、3階を寮にしました。」とあります。また、『くにとち』第19号（同調会、1970年1月1日）2面「対談 母校44年の歩み」（3）で中館氏は、「とにかく、国立へ初めて行ったときは、本校舎は完成してなかったからね。あの前〔国立駅前：引用者〕の建物をみんな借りたんです。今の三井銀行のところに、丸通があってその二階、三階が寮だった。」とも語っています。

⁹ 『一橋新聞』第55号（昭和2年7月18日）3面「各部の合宿で賑わった国立 休暇を控へ活気を呈す」で、「競技部は神戸高商との対抗競技を控へ三科合同にて国立駅前の国立運送店二階に十二日〔昭和2年7月：引用者〕まで専門部会剣道部は五日より十五日まで同運送店三階にそれぞれ合宿練習を行った」と報じています。



資料4の一部拡大

この建築制限については、実際の営業トークでも語られていたようで、『一橋新聞』第31号（大正15年3月15日）で「相そよく箱根土地の社員が答へる 建築する商店住宅はことごとく文化式な本建築にすることを条件として分譲する」¹⁰と報じられています。

なお、資料4の建築制限の文言に続けて、大正15年4月1日より国立大学町を会場とした住宅改善協会主催の「住宅建築博覧会」を開催することを述べています。そこでは「多数の住宅を実地に建築し斯界の権威たる諸博士が顧問として審査指導せらるゝ事になつて居ります。」とされています。この住宅建築博覧会がどのようなものであったのか、詳細はよく分かっていません¹¹。た

だ、下の写真（資料5）にあるように、箱根土地の国分寺出張所において、壁面に大きくこの博覧会開催を案内していることからすれば、実際に住宅の実物展示による博覧会が催されたものとみられます。東京高等音楽学院が国立へ移転したときに教室等として利用した建物について、「会社〔箱根土地：引用者〕がモデルとして作ったたて物が駅前は何軒かあってそれを私どもの教室に使ったんです。」¹²と語られています。この点から察して、国立運送店の建物は、商店建築ではありますが、この博覧会の開催にあたって箱根土地が見本として建てたもの、そのような可能性があるのではないのでしょうか。



資料5 国立大学町住宅建築博覧会の案内
大正15（1926）年
明窓浄机館所蔵（中島陟資料）

10 『一橋新聞』第31号（大正15年3月15日）2面「建設中の国立町」。

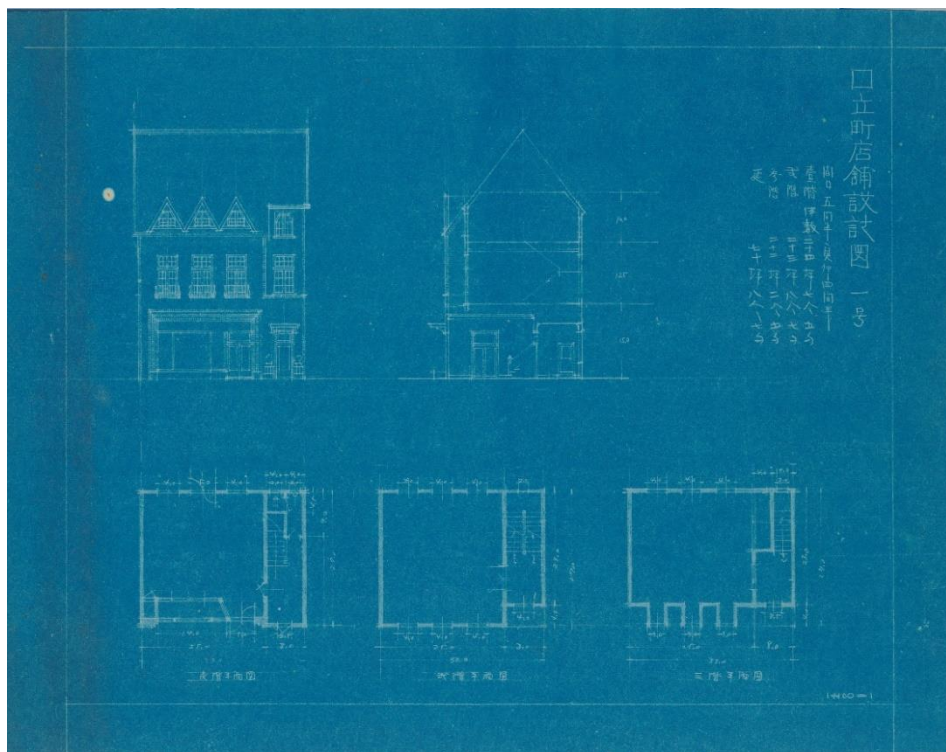
11 『私たちの町くにたち 聞きとり資料（1）国立開発～昭和20年』（国立市公民館図書室所蔵）には、箱根土地のサンプル住宅について語られているもの（「佐伯さん（元箱根土地社員）の話」、「郵便局長萩原さんの話」）がありますが、管見の限り、博覧会の詳細が語られているものは見当たりません。

12 前掲註6と同じ。

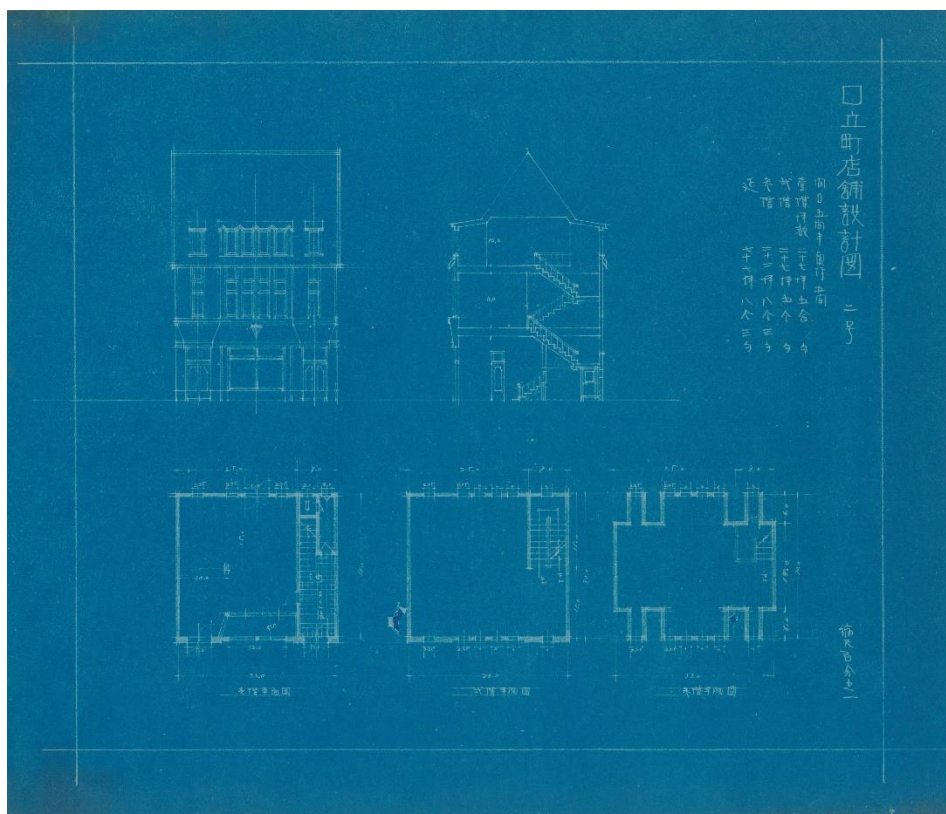
さて、ここで次の4枚の青焼き図面（資料6-1～4）をご覧ください。

資料6 国立町店舗設計図 一号～四号 大正15（1926）年頃

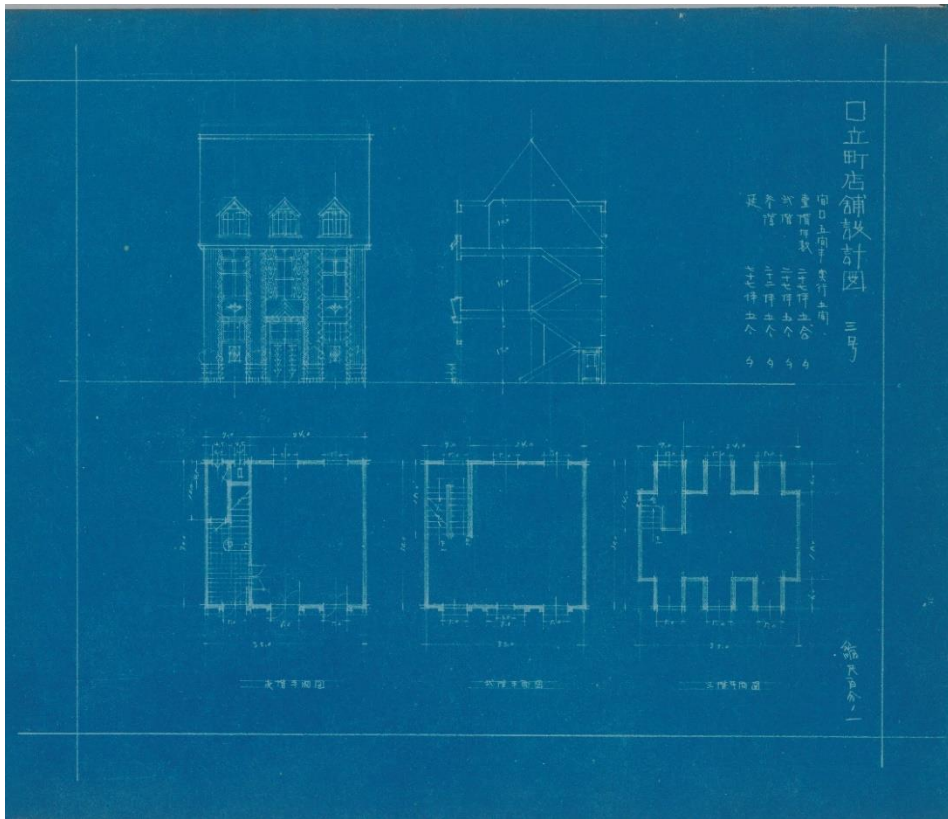
くにたち郷土文化館所蔵（西野敏雄家資料）



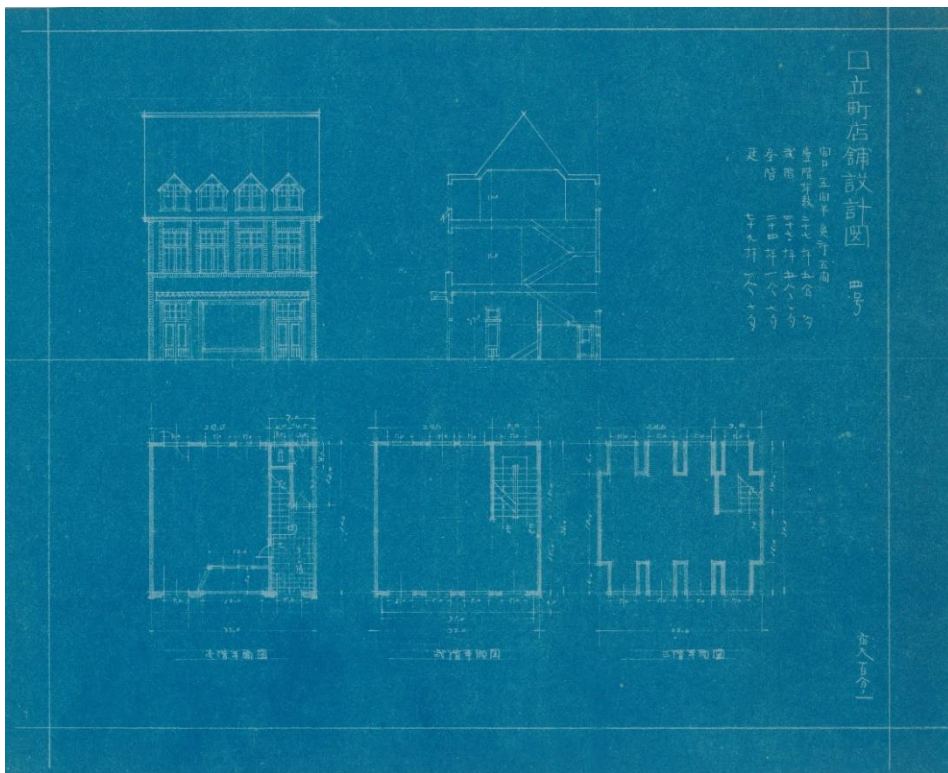
資料6-1 国立町店舗設計図 一号



資料6-2 国立町店舗設計図 二号



資料 6-3 国立町店舖設計圖 三號



資料 6-4 国立町店舖設計圖 四號

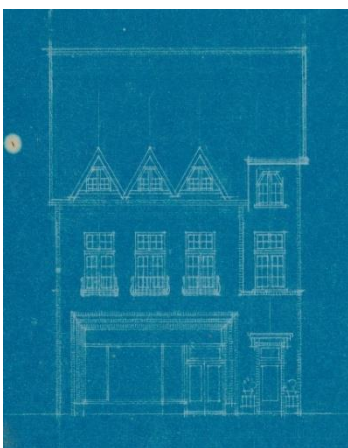


西野寛司氏と妻の縫（ヌイ）氏

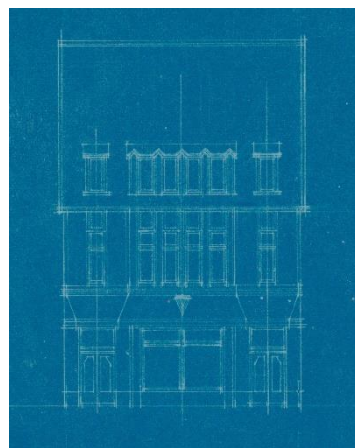
これらの青焼き図面は、近年、西野敏雄氏より当館にご寄贈いただいた数多くの資料（西野敏雄家資料）にあるものです。敏雄氏の曾祖父は、箱根土地による国立大学町の開発・分譲が行われていた時期に谷保村の村長であった西野寛司氏¹³であり、西野敏雄家資料には大学町開発に関係するとみられる資料が含まれています。なお、国立大学町の開発期を知る原田重久氏は、箱根土地による土地買収の進展に関して、「村百年の計を説き、率先してかなりの広域に亘るわが全所有山林を提供した村長西野寛司氏の英断のあったことを見逃すわけにはいかない。西野氏に続いて、大多数の地主が賛成の手を挙げ、さしにも難行していた谷保村山林地帯大開発の端緒を見出すことができたのである。」¹⁴と述べています。

資料 6 の西野敏雄家資料の 4 点の図面は、「国立町店舗設計図」と題された 4 店舗分（1号～4号）の設計図で、いずれも間口 5 間半（33 尺・約 10m）の洋風 3 階建の商店として設計されています。

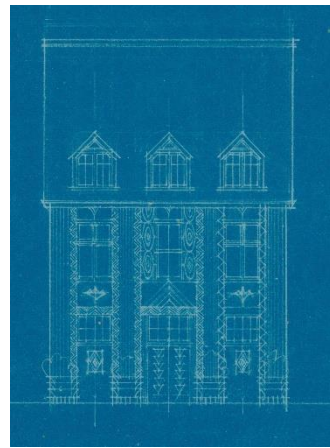
これらの図面が作成された時期等を推し量れる記載などは見当たらず、これらの店舗がどのような経緯で、いつ頃、誰が設計したものなのか、残念ながら詳らかではありません。ただ、これらの店舗は、国立大学町における商店建築のモデルとして設計されたものではないかとみられます。



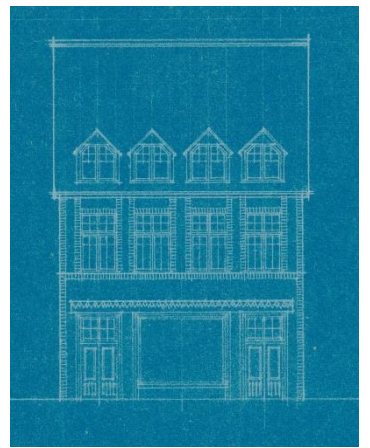
一号店舗立面図



二号店舗立面図



三号店舗立面図



四号店舗立面図

¹³ 西野寛司氏は、大正 14（1925）年 3 月 16 日の谷保村会で村長に選ばれ、昭和 5（1930）年 9 月 15 日までその任にあたりました。

¹⁴ 原田重久「大正時代の谷保村と国立学園都市の開発—回想風に一」『多摩のあゆみ』第 41 号（多摩中央信用金庫、1985 年 11 月 15 日）27 頁。

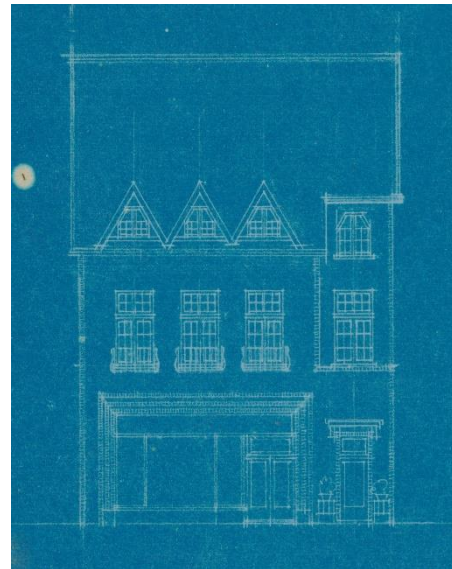
『国立町店舗設計図』間口・奥行・延べ坪一覧

国立町店舗設計図	1号	2号	3号	4号
間口	5間半	5間半	5間半	5間半
奥行	4間半	5間	5間	5間
1階坪数	24坪7合5勺	27坪5合	27坪5合	27坪5合
2階坪数	23坪8合7勺	27坪5合	27坪5合	27坪5合
3階坪数	22坪2合5勺	22坪8合3勺	22坪5合	24坪1合7勺
延坪数	70坪8合7勺	77坪8合3勺	77坪5合	79坪1合7勺

資料1の国立運送店の写真と資料6-1の店舗設計図の一号の店舗をみてください。

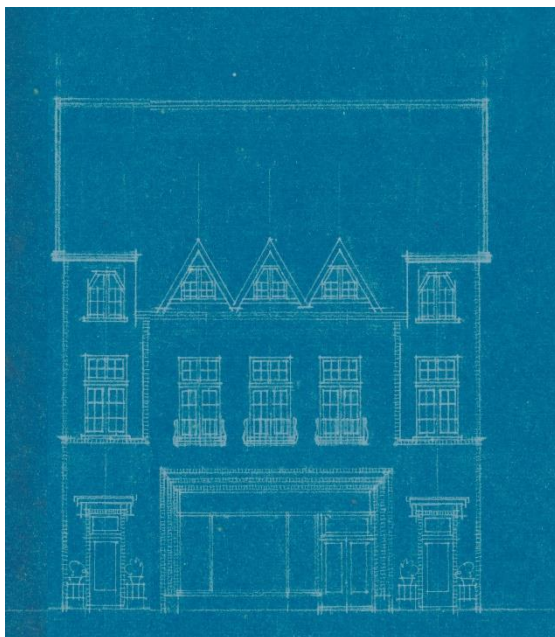


資料1の掲載写真



資料6-1の一号店舗立面図

デザインが似ていると感じませんか？ 資料6-1を少々加工すると下のようになります。



資料6-1の一号店舗立面図を加工

国立運送店の建築と『国立町店舗設計図』の一号店舗の図面は、間口などの相違こそありますが、ベースのデザインが類似しています。一号店舗の設計図にある店舗デザインが基になって、国立運送店が建てられたのではないかと考えたいくなるものです。

他の店舗設計図に描かれている商店が実際に建築されていたのかどうかは、はっきりしていません。大学通りの東側通り沿いに洋風3階建の商店建築(国立マーケット)が建てられていますが、遺された写真資料から確認する限り、一号から四号の店舗設計図に描かれている店舗のデザインとは相違しているようにみられます(資料7参照)。



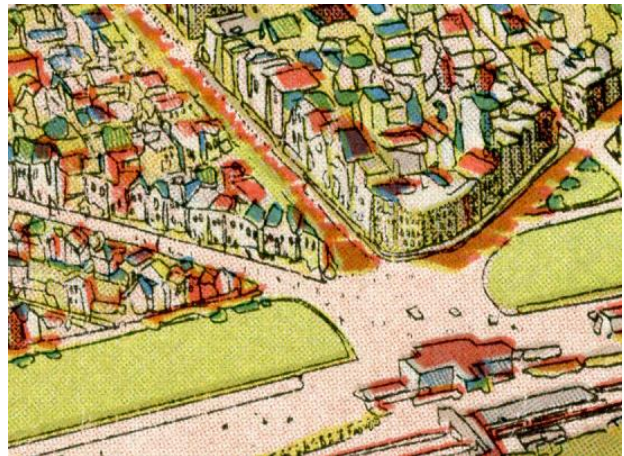
資料 7 歩道の整備された大学通り 昭和 2 (1927) 年
明窓浄机館所蔵 (中島陟資料)

歩道が整備された大学通りを、北側から南側へ向けて撮影した 1 枚。大学通りの向かい側、写真の左上にみえている建物が国立マーケット。

箱根土地が作成した分譲広告でも早い段階のものともみられる『国立の大学町鳥瞰図』(資料 8) をみると、大学通りや旭通り・富士見通りに沿って、背の高い 3 階建にもみえる建物が連なって建っているような描写がなされています。



資料 8 国立の大学町鳥瞰図 大正 14 (1925) 年頃
くにたち郷土文化館所蔵



資料 8 の部分拡大

「たれば」ではありますが、国立運送店の他にも、『国立町店舗設計図』にあるような商店建築が国立駅前や大学通りなどに軒を連ねて建てられていたとしたら、駅前の景色はまた違ったものとなっていたでしょう。この図面からそんな景色を想像するのも一興です。

さて、資料 1 に写真が掲載されている「国立の或る商店」(国立運送店) に続けて、「国立の或る住宅」についても紹介する予定でいましたが、説明がだいぶ長くなってしまいました。この住宅については機会を改めて紹介させていただきます。

【2020.04.25 : 中村記】